

2018-19年度

ガバナー公式訪問

クラブ協議会

と き 平成30年8月29日(水)
と ころ ホテルヘリテージ飯能sta.

飯能ロータリークラブ 日高ロータリークラブ

●飯能RC

島田秀和会長

飯能クラブは本年55周年の節目の年を迎えました。4月の座談会から会員の皆様にはご説明させて頂いておりますが、一旦立ち止まって、これから5年、10年先のクラブについて一生懸命考えて方向性を出そうという年にするという事で「方針」を立てさせて頂きました。具体的には5つ。1) 伝統ある飯能RCの、時代が変わっても大事な事と飯能クラブの心を学び、間違いなく受け継いでいく。今までの伝統をロータリーライフを含めて学ばせて頂く。2) クラブの方向性を考える。本庄RCは茂木ガバナーで5人目だそうです。飯能は55年になりますますが手を挙げさせてもらっていません。第3グループでも一、二番目の会員数でありながら未だガバナーを輩出していません。この件について細淵補佐からもご意見を頂きました。9月にパスト会長会議を開いて方向性を決めて頂きたい。出向は本年度5人。地区との距離を縮めるためにも、出向し、情報を共有し、ガバナーを輩出するクラブへの階段づくりをしたい。3) 増強10%、6名を目標に掲げました。ファイルも利用して早目にあと5名を達成したい。ご協力よろしく願います。4) 事業の見直し。ベトナムへの教育支援は5年目。スタート段階で期間やPC台数等について決めていませんでした。5年経ち、8月に無記名アンケートを実施、結果は来月理事会にて発表。年々繰越金が減っている事を踏まえて考えたい。理事の皆様、お考えを是非出して頂きたいと思っております。5) 飯能RCを宣伝する。59人全員が増強にアタックし説明して頂く事も良い宣伝になるかと思っております。「RCは難しい。分かってほしい方が多い」との意見もありますが、それだと他の分かり易い奉仕団体に入会されてしまう。ここ何年かで増強しなければ自然に減少してしまいます。世界的には増えているらしいですが、日本、特に第2570地区は減少傾向にあり現在1607名だそうです。多少強引な部分もある私ですが、「やり過ぎじゃないの」との批判を頂いても、5つの方針の下、頑張っていきたいと思っておりますし、5年、10年先に「あの年に人数が集まって良かった」と評価される事を目指しているわけです。格別なご協力を頂き是非達成したいと思っております。

●クラブ奉仕委員会

服部融亮委員長

「クラブ奉仕」とは「クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員がとるべき行動に関わるもの」。CLP導入で「クラブ管理・

運営部門」と称されるようにもなりました。職奉・社奉・国際奉・R財団・米山の各委員会の対外的な奉仕に対し、スムーズに活動が行えるようサポート出来ればと考えています。会長方針「伝統ある飯能RCを学ぶ」を受け、神田(康)、細田(吉)パスト会長より「伝統・歴史・創始の考え方・ロータリーライフ」について卓話を頂き、55期の重みを全会員の共通認識としていきたい。そして、新たな活動の指針を示せるよう、出席・プログラム・R情報・親睦の各委員会と連携し、クラブ戦略を考えていきたい。余談ですが、増強用ファイルは私が増強委員長の際に作らせて頂きました。冊子だと1年で使えなくなりますが、はさみ込みですと毎年使えます。是非ご活用頂きたいと思っております。

●職業奉仕委員会

中里昌平委員長

「一業種一人」の原則からスタートした事から理解される通り、ここがRCと他団体とが一線を画す大きなポイントであるわけです。職業奉仕がRCの基本という事に変わりはないと考えます。「職業を通じて社会に貢献する」という基本理念は「四つのテスト」に表現されています。25年前、私が職業委員長の時、『職業奉仕の成り立ちと四つのテストの由来』という冊子を発行しました。当時も「職業奉仕は分かり難い」と言われていました。吉島会員のお父様に卓話をお願いしたところ、たいへん示唆に富んだ内容だったため、それを冊子にして配付したのです。神田(康)さんから再発行の勧めもあり、それを復刻し、本日皆様にお届けする事が出来ました。職業奉仕の分かり難さは職業観の違いだという事です。「職業奉仕」 Vocational Serviceの語源Voice(声)は神の声。西洋人にとって職業は神様のお告げ、仕事は罪滅ぼしなのであります。キリスト教的な職業観が、東洋的な結、協同等の職業観とそぐわないため、よく分からないという事だそうです。「四つのテスト」は原点を知る意味で英語バージョンでの唱和も実施しました。日本語訳が物議をかもした時期もあり、英語での唱和はそれを掘り下げるといった意義がありました。fair, goodwill等は今でも論議が続いているようです。今年は方向を変えたいなあと考えておりましたところ、インスピレーション…閃きました。「歌」があったのです。今日は初めて伴奏だけで歌ったのですがお気づきになりましたか。皆さん完全に覚えています。もう看板は要りません。歌う事で「四つのテスト」に対する想いも深まってくる事を期待しております。

●社会奉仕委員会 大崎光二委員長

前島委員は地区の地域社会奉仕委員会にも所属。飯能クラブの公共イメージの宣伝と、分かり易いロータリーを目標そうという事に致しました。地区事業への協力はもちろん、地元で要望される事業を模索し、実施を検討しようという事で、先日関連5委員会：社奉・環境保全・青少年・会報広報・雑誌で初の合同意見交換会を開催しました。初めてではありましたが熱心なご意見をたくさん頂き、今後はさらに中身の濃い議論をさせて頂きながら、出来ればかたちのあるものに出来ればと考えております。担当例会は偶然10/10「目の愛護デー」でして、早速、地区委員長に卓話をお願い致しました。常に活動目標を念頭に活動して参りたいと思っております。

●国際奉仕委員会 矢島高明委員長

RC綱領第4項に「奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進する」とあります。当クラブとしては事業として「駿河台大学留学生日本語スピーチコンテスト」への協賛、入賞者による卓話(1/30)、世界的な災害発生時に支援を行っていく事。4年間で約80台のPCをベトナムの学校に寄贈してきましたが、今回、アンケートを基に理事会で事業の方向性を明確にしたいと思えます。皆様が納得するようなかたちで前向きに解釈しながらやっていければと思います。

●青少年奉仕委員会 川口浩委員長

ガバナーの卓話にもございましたように、次世代を担う青少年の育成はロータリアンの責務です。彼らを取り巻く環境は目まぐるしく変化し、健全な育成には関係諸団体との協力、連携が不可欠と考えます。地域の宝である青少年をロータリーの活動を通して支援し次世代のリーダーとなる方を飯能から輩出出来るように活動して参りたい。地区の青少年奉仕部門は「青少年交換」「ライラ」「アクト」3つの委員会構成となっております。「青少年交換」については、当クラブは会員の高齢化が特に進んでおり、ホストファミリーを引き受ける会員ファミリーも高齢化、なかなか難しい状態です。昨年度イタリアからの留学生を十分におもてなしする事が出来なかったという経緯もありますので、今年度、6名の新会員、若い会員が増えましたら、その人達に働いてもらう等、次年度以降の課題としたいと考えています。近隣の西武文理、狭山ヶ丘高校にインターアクトクラブがあるので、顧問の先生やクラブ会員にお話を伺う機会を今年度中にもって、次のステップに進めていけたらと考えております。「想いをかたちに」想いを繋げるような活動を目指して頑張っています。

◎茂木ガバナー講評

各委員長の皆様有難うございました。全ての事について触れたいとは思いますが、時間の都合上、非常に感銘を受けた事についてもお話させて頂きます。島田会長は55周年を迎えるとの事で非常に素晴らしい活動をされ、また、未だガバナーを出した事が無いというお話でした。すぐにもエレクトとして準備をしておりますので、どなたがやっても必ず成果を上げられる事と思えます。挙手をお願いしてもいい位です。地区には5名出向して頂いています。10%、あと数名の増強を是非是非お願い申し上げます。ベトナムへの

PC支援は長い間やられているとの事。海外への支援、共同事業はともすればズルズルとなってしまう。どこかできちんと次のステップを考えていく。止めてしまうという事ではなくて次の新しい事にもチャレンジをしていく。今までの事業が重荷になっていくような事であるとしたら再考して頂きたい。地区の事業でも、支援金・補助金がRIでなくてもまだあります。是非申請して活用して頂きたい。公共イメージのアップが増強に繋がると信じております。よろしくお祈りします。クラブ奉仕でも「クラブ戦略」という言葉を使っていらっしゃいました。全くその通り、「戦略」です。この闘いに勝つ事は日本を良くする事、地区を良くする事、会社・家庭を良くする事です。「やり方」でそれが可能だと信じています。職業奉仕“Vocational Service”を再認識させて頂いた。原点を知る「四つのテスト」全くその通りです。温故知新、素晴らしい活動をやって頂けると信じております。青少年奉仕に関しても、私達の想いを青少年に伝えていく、かたちを伝えていくという意味でも、素晴らしい活動をされているというご報告でした。日高の小坂会長より、地域のロータリアンの中への想いをもっともっと高めていくんだというお話でした。歴代会長の想いを今、小坂会長が一人で背負っていらっしゃる。それは私も皆様も同じである、と、もう一度確認してみたい。クラブ管理運営委員長も職奉委員長もおっしゃっていましたが、社会のために役立ちたい、事業主それぞれがロータリー活動を通して、地域や社会の役に立っていききたい、それが職業奉仕の大きな大きな目的の一つであるとおっしゃっていました。ロータリーで社員の個人表彰もされとの事、気づきを頂きました。実現して頂きたい。ロータリアンの事業所を親睦旅行の中で訪問していくというお話は、私共も実行していきたい。社奉委員長、桜並木の管理、他団体への協力・支援。「日高市民まつり」でお好み焼きを皆で販売していく。そして、市民への意識を高め、副次的な効果として、売り上げは支援に使う。こうした事はまさしくずっと前のメンバーの、「お金さえ出せばいい」というのとちよっと違ってきたのかなと感じます。ロータリアンの資質が高まったとさえ思っております。世界の国々にお金を出して支援したところで、私達のあり方を相手の国は見えていらっしゃいます。いくらお金を出したとしてもおそらく尊敬される国にはなっていない。同朋の骨を放り出しっぱなしにしているような国が尊敬されるわけではないと思っている一人です。同様に、私達のやっている事を市民の皆様はしっかりと見ていらっしゃる。私達の活動を通じて市民の皆様へアピールしていく事が、これからのRCの発展にとって非常に大切な事だと思っております。国際奉仕、日高には素晴らしい神社があり、奨学生だった李さんがロータリアンになる。最高ですね。こうした活動を私達は続けていきたい。そんな気持ちでいっぱいです。現在、日本には2,271クラブ、87,000名の会員がいらっしゃいます。世界では35,600クラブ、122万人のロータリアンが活動しています。志を同じくするメンバーを増やし、2570地区から活動を発信していきたい。飯能クラブから次のエレクトを出して頂く事もその一つです。是非よろしくお祈り致します。